人権通信　保護者版 Vol.3

しらかべ

創立 100 周年ロゴマーク

２０１６年１２月１２日　人権・同和教育部発行

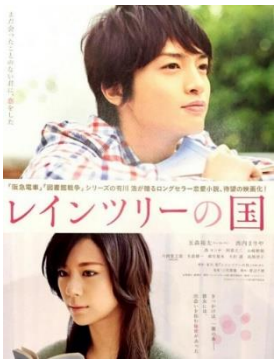
師走の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権･同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今月号は２学期に行った人権・同和教育 LHR で学んだ生徒の感想を中心に紹介します。ぜひ、ご家庭でお読みいただければ幸いです。また、LHR 後に家庭で話し合った内容や「しらかべ」をお読みいただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などがありましたら、**別紙返信用紙にご記入の上、２学期保護者懇談の折に担任の先生にお渡しください。**

第 68 回全国人権・同和教育研究大会　ー生徒が主体的に取り組む人権・同和教育ー

11 月 26・27 日に大阪市において第 68 回全国人権・同和教育研究大会が開催され、坂出高校の取組を報告しました。7 月に四国地区人権教育研究大会で「生徒が主体的に取り組む人権・同和教育 LHR の展開」を報告し、今回は、その続きで各学年の「現地訪問学習会」での学び、異学年の生徒同士の学習会、人権通信を通した保護者啓発などの取組を報告しました。この報告では、新しい方法を用いて人権・同和教育を行うことよりも、生徒全員の人権・同和問題に対する意識の変容に焦点をあて、LHR や人権だよりなど、従前から行われている手法を見直すことで、その意義を再確認しました。人権・同和教育は、それぞれの学校や生徒の特色を生かした内容・手法であればあるほど、生徒が主体的に学ぼうとします。本校では、10 数年続く現地訪問学習会を通しての学びをなかまに伝えることで共有するだけでなく、LHR を含めた学習を生徒中心で行うことで学びがより深まり広がっています。これを坂出高校の人権・同和教育の大きな特徴として、今後も継続したいと考えています。そして、香同教大会、四人研大会、全人教大会の報告に向けた取組で学んだこと、大会の中でいただいた貴重なご意見を受け止め、これからもしっかりとした実践を積み重ねていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

人権映画鑑賞会　「レインツリーの国」



12 月 7 日（水）、坂出市民ホールにおいて、1･2 年生と保護者を対象に人権映画鑑賞会を開催しました。「レインツリーの国」原作は、「阪急電車」、「図書館戦争」シリーズなどの人気作家・有川浩さん。また、この映画は、文部科学省が共生社会の形成に向けて、障がいのある子どもとない子どもが可能な限り共に教育を受けられるよう配慮する「インクルーシブ教育システム」の理念を広く浸透させることを目的として、推奨した映画です。主人公と聴覚障がいのあるヒロインが、当初は衝突しつつも徐々に距離を縮めていく過程が繊細に描かれており、人と人が相互に理解することのすばらしさを伝える映画でした。鑑賞した生徒は、「障がいがある・ないに関係なく、支え合い、誰もが安心して暮らせる社会にするにはどうしたらいいのだろうか。人それぞれにある個性を受け入れる心こそが今足りないのではないだろうか。お互いを尊重できる人になりたい」と感想を寄せました。素敵なラブストーリーからそれだけではない多くのことを学びました。ぜひ、この作品について、ご家庭で話し合ってみてはいかがでしょうか。

3 年生 2 学期　　坂高生活最後の人権・同和教育ＬＨＲ

「幸せな生き方を求めて」　～結婚差別解消のために～

２学期１回目の LHR では、高校３年間の総まとめとして、「結婚」をめぐる差別を取り上げました。両性の合意のみに基づいて成立する結婚が、そうではない現実があるということを学びました。事前学習として、7 月末に各クラスの HR 委員が参加して「結婚差別聞き取り学習会」を実施しました。その学習会に参加した生徒からの感想を聞くことで、より身近な問題としてとらえることができました。

ただ、この LHR の大きな目的は、この世の中に存在するあらゆる人権課題を認識して、これから社会人としてそのような問題に直面したとき、正しい判断ができる人間になるということです。結婚は大きなテーマですが、そこに潜む問題点はどのような事例にも共通しているといえます。まずは自分自身が、そして身近な人々がバランスのとれた人権感覚を身につけようとする心構えが必要といえるのではないでしょうか。

「わたしたちのまち　再発見！」

２回目の LHR は、そのような人権感覚を身につけようと、「あるまちの風景」をみながら、そこで考えられる問題点などをグループで討議し、発表しました。その絵に描かれているのは、例えば横断歩道のないところを渡ろうとしている杖をついた男性。すぐそこに段差が迫っています。少し離れた場所に横断歩道はありますが、そこへ行き着くための点字ブロックの上にはたくさんの放置自転車が…。

このような課題が随所にちりばめられています。作成者は美術部３年生。今後につながる素晴らしいイラストをありがとうございました。

グループでは熱心に意見交換ができ、とても実りある時間を持てました。少しの注意で解決する問題、わかってはいてもなかなか改善の難しい問題などさまざまな視点から人権意識をもって社会をみることの大切さを学んだ時間でした。

３年間の人権・同和教育ＬＨＲをとおして

坂出高校の人権・同和教育 LHR では生徒が主体となった学習をめざし、学習会への参加や生徒司会によって LHR を進行しています。とくにホームルーム運営委員は中心となって活動し、昼休みや放課後の貴重な時間に事前準備を行い、クラス全体の前で自身の思いを実直な言葉で語ってくれました。本当にありがとうございました。

これからいかなる場面においても自分ならどうするか、自分には何ができるかを考えることで解決できることがたくさんあるはずです。これから社会へ巣立つ３年生に大きな期待を寄せています。

３年間の学習を終えて（生徒の感想より抜粋）

- 差別を解決するためにはまず差別を知ることが大切だと思いました。その差別を知らなければ、今、差別を受けている人々がどのような立場におかれているか分からず、差別を解決できないと思います。
- ３年生になって LHR 運営委員を務めるにあたり、「人権」というものを違う視点から見るようになりました。人権を伝えるという立場になり、主体的に向き合うようになりました。受動的に学んでいるうちは差別を受けている方々に対して、かわいそうという感情が自分の中で先走っていました。しかし、初めて学校の授業で人権学習の時間を設ける意味がわかった気がしました。伝えたかったことは、どのようにしたら差別をする側の人を少なくするのかを考え、実際に自分自身が行動していかなければならないということです